

## 非稼働病床の現況について ( 大阪市東部 基本保健医療圏・病院)

資料 2-4

【東部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	独立行政法人国立病院 機構大阪医療センター	大阪市中央区	41床	平成 27 年度	新型コロナウイルス感染症の流行時の病棟として整備・活用した病棟であり、通常時に稼働させない病棟であるため。 施設基準の関係で届け出病床数に制限があるため。	病床の一部を削減し、再稼働する。	未定	病院更新築計画の立案中のため削減病床が未定であるため。削減病床数が確定次第削減する。
2	社会医療法人大阪国際 メディカル&サイエンスセンター 大阪警察病院	大阪市天王寺区	41床	令和 6 年度	2025年1月に新病院開設に伴い、各病棟の看護師の配置も含め、当該病棟の開始時期について検討を行っている。	再稼働する。	未定	医療従事者の確保の目途が立ち次第、病棟をオープンさせる予定である。
3	社会福祉法人四天王寺 福祉事業団四天王寺病院	大阪市天王寺区	47床	令和 5 年度	看護師不足に伴い職員の確保ができないことと、医師不足により経営上、収支状況が改善できていない。	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	介護医療院への転換は収支状況の改善が見込めないため断念した。 令和7年10月1日より大阪府の病床数適正化支援事業により7階急性期病床については50床の内の45床を、4階療養病床については47床の内2床を返還となった。
4	なにわ病院	大阪市浪速区	10床	令和 6 年度	地域包括ケア病棟を令和6年3月より新たに開設したことにより、医療従事者の安定的な確保と入院患者の獲得に時間を要したため。	再稼働する。	今年度中	すでに従事者の確保は済んでおり、安定的に病床稼働率が向上しているため、年度内の許可病床数最大利用を見込んでいる。
5	社会医療法人寿会富永 病院	大阪市浪速区	19床	令和 5 年度	コロナ禍明け以降、入院患者数がコロナ禍以前の水準に戻らないため。	その他	未定	当該非稼働病床については、 1.他の地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟の増床に伴って減少させるか、 2.院内のスペース確保のため削減するか、 3.地域医療機関との連携や救急車受け入れ台数の増加対策（脳神経外科だけでなく、循環器内科の受け入れも強化）を行い再稼働する かどうかの3案で検討している。
6	医療法人同友会共和病院	大阪市生野区	39床	令和 6 年度	人員確保が困難になってきているのに加え、病床稼働率からも経営的に厳しいことが大きな理由であります。	病床の一部を削減し、再稼働する。	今年度中	今年度中にまず非稼働病床の一部を廃止し、次年度中に医療従事者の確保が出来なければ、残りの20床についても返還する方向で検討します。削減病床の19床（急性期12床、慢性期9床）を予定しております。

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去 1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

非稼働病床の現況について ( 大阪市東部 基本保健医療圏・診療所 )

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去 1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所 ( 非稼働病床という )

【東部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	大阪肛門科診療所	大阪市中央区	19床	令和 5 年度	医師の勤務体制により、稼働が不可能となったため	再稼働する。	未定	令和何年からと具体的な事はまだ決めておりませんが、後継者は決まっておりますので、建替→再編は数年後になる予定です。
2	医療法人清医会 三上クリニック	大阪市城東区	19床	平成 25 年度	前年と同じく、国内における透析患者数の減少と一般外来患者数も以前より減少しており、病棟の再稼働には多額な費用が必要となり、医師の働き方改革他からも非常勤医師の不足、看護師の不足他から進んでおりません。	その他		本年7月に理事長、院長が交代したのを機に、まずは透析患者と一般外来患者の確保をしてから再稼働の必要経費を捻出したく、病床活用につき薬品メーカー含め薬業会に相談をしているところです。近隣病院からは地域医療連携推進法人への加盟の誘いもあり、未だ、明確な解答が無いまま模索しております。
3	医療法人正啓会 西下胃腸医院	大阪市天王寺区	7床	令和 6 年度	日帰り手術が大半で緊急入院も少なく、新興感染症も落ち着いているため。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		新興感染症時の病床として利用を計画している。
4	医療法人 岩本診療所	大阪市東成区	7床	平成 1 年度	人員不足、確保困難である事、人件費高騰、物価高騰に見合わない診療報酬体系から経営上の判断もあるが、在宅医療のバックベッド確保や、日帰り手術、ポリペクトミー後の状態観察などのため必要性も認識しております。今後の医療情勢や人員確保の目処が立ち次第再稼働予定です。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		現在人員増員中で、あとは経営上の判断になります
5	医療法人光臨会 奥野クリニック	大阪市生野区	3床	平成 3 年度	産科患者の受け入れを休止しているため	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		現状維持
6	藤上産婦人科クリニック	大阪市生野区	4床	平成 22 年度	看護職など有資格者の確保が難しいこと、患者ニーズがないこと、年齢的体力的に不安があること、等。	病棟を削減する又は無床診療所とする。	翌年度中	来年度か今年度中に無床診療所に変更する予定。